

しまねの社会教育だより

島根県立県民社会教育研修センター
vol. 28
島根県立県民社会教育研修センター



photo プレーパークかきのき(吉賀町 柿木放課後サクラマス教室)「ひみつきち かんせーい!!」

特集 島根県は、これからも 公民館と共に歩んでいきます 2019. 2月号

contents

- 時代は、ファシリテーターを求めている!
- 学びがチカラに!! [美郷町 都賀公民館 宮岡 美佐子さん]
- わがまちの社会教育の実践紹介 [雲南市・津和野町]
- 親学の今! [邑南町]

特集 島根県は、これからも

1 なぜ公民館を支援していくのか

今日、地域住民の価値観の多様化、関係性の希薄化により、各地域において防災、子育て、地域福祉など地域課題の重要度が増えています。このような地域課題は、社会の変化に伴い刻々と変化しているため、課題解決に向けた一律な方法は見出しにくく、その都度、各地域の実情に合った方法で対応していく必要があります。そして、その基盤となる機能が公民館には備わっています。

地域住民に1番身近な社会教育施設である公民館は「地域住民がつながりをつくり、学びを通して当事者意識を高め、課題解決に向けて動き出す」いわゆる社会教育の流儀を実践しています。島根県では、「地域づくりを担う人づくり」機能を最大限に活かすことができるよう公民館を支援しています。

2 公民館支援の手立て

島根県では、「地域づくりを担う人づくり」機能を維持・向上させるため、「実証!『地域力』醸成プログラム」のモデル公民館として合計128館を選定し事業支援を行いました。それを実績として、平成28年度から「地域課題解決型公民館支援事業」(実施数89)「ふるさと体験活動公民館支援事業」(実施数23)、平成30年度から「公民館はじめの一步支援事業」(実施数5)等によって公民館支援を行っています。

【公民館を対象として行った支援事業の経緯】

H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	...
実証!『地域力』醸成プログラム												
公民館ふるまい推進事業												
地域課題解決型公民館支援事業												
公民館ふるさと教育推進事業												
ふるさと体験活動公民館支援事業												
公民館はじめの一步支援事業												

3 地域課題の解決をめざす公民館の実践例

「平成30年度公民館等実態調査(平成29年度実施分)」によると、県内全公民館の内、地域課題を把握している館は287館です。把握している287館のうち、124館が「次世代の人材育成(リーダー育成)」を地域課題と捉えているという結果がでています。

活力ある持続可能な地域づくりに向けて、地域課題を自分事として捉え、自主的に解決に向けて動こうとする地域住民を増やしていくことが求められています。

ここでは、「次世代の人材育成」を進めている公民館の実践を紹介します。

【公民館等職員が把握している地域課題】(多いものから5つ抽出)

回答数	地域課題の項目
124	次世代の人材育成(リーダーの育成)
89	青壮年層の地域活動への参画
87	防災意識の高揚
84	地域全体で活動していく意識の向上・しくみづくり
71	地域住民同士の絆づくり

平成30年度公民館等実態調査より

若者がつむぐ古志原の絆 ~ヤング古志原の活動を通して~

松江市 古志原公民館



「キッズ・アドベンチャー・キャンプ」への参加

古志原公民館では、次世代を担う若者に、地域活動や公民館活動への参加を促進するために、公民館が核となって「ヤング古志原」を結成しました。「ヤングコシ」の愛称で呼ばれるこの若者グループは、多世代・各種団体との交流機会をもち、地域活動への参加を進めています。

例えば、「だんだん夏踊り」「小学生キャンプ」「公民館まつり」等の地域活動に参加し、住民との交流を図っています。また、「笹巻き交流会」「ピザ交流会」等の支援・協働活動を実施し、地域住民の信頼を得ています。主催事業として、「古志原ミーティング」「水辺の観察会」「通学路清掃活動」等を実施しました。それらの活動する姿は、小・中・高校生のあこがれの対象になりつつあります。(次ページに続く)

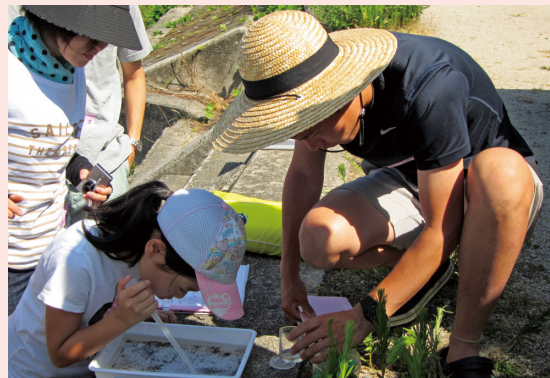
公民館と共に歩んでいきます

平成26年の結成以来、ヤンコシ会員たちの地域貢献意識が高まり、地域発展に向けた提案をする姿が見られるようになりました。

地域住民は、若者を支援する意識が高まり、地域活動へ参加を要請する姿や若者の意見を期待する姿が増えてきました。

そこには、これまでの「血縁」や地域のつながりである「地域縁」をもとに、同じ目的や課題を中心につながる「目的縁」を紡いで織り交ぜていくしかけがあります。そして、公民館がめざす地域像を明確にし、地域のさまざまな住民や団体をつなげる工夫をしながら、若者が活躍する場づくりを進める取組があります。

活動を通して地域のさまざまな世代と関わるヤンコシ会員



「水辺の観察会 in 馬橋川」の活動

4 これまでの成果や課題

公民館活動により、地域住民同士の結びつきが強まり、主体的に地域課題を掘り下げ、その解決に向けて動き出す地域が増えていきます。また、「地域づくりを担う人づくり」を進める公民館職員の力量や意識も高まってきました。そして、地域社会における公民館の存在意義が高まり、公民館活動の重要性について再認識（世論喚起）が進んでいます。

一方で、事業実施する公民館においては、活動することが目的化し、「地域づくりを担う人づくり」という本来のねらいを忘れがちな実践も見受けられます。また、地域課題の解決に向け事業実施に踏み切れない公民館が「自信をつける」機会が少ないことも課題としてあげられます。

5 これからの公民館支援の基本的な考え

財政的に厳しく、少子高齢化が進む本県にとって、地域住民の元気が最大のエネルギーです。そのために、自分たちの地域を自分たちでよりよくしようとする地域の底力が必要になります。これからも、公民館活動によって住民主体の活動が展開できるよう、地域活動の最前線である公民館を支援していきます。

6 地域課題の解決に向けた公民館活動を

人が集う公民館は素敵です。それが、楽しい集いであれば活気が生まれます。しかし、そこで終わるのではなく、楽しい集いに、学びの要素が加われば、そして、地域住民の意識が変わっていけばどうでしょう。地域課題を自分事として捉え、解決に向けて動き出す人が増えるのではないのでしょうか。公民館活動が、好循環を生み、持続可能な地域づくりにつながることを願っています。



東部・西部社会教育研修センターでは、来年度も、公民館職員を対象とした「公民館等職員研修 ～PDCAサイクルで見直す公民館事業の実際～」を開催します。

この研修では、実際の公民館事業がPDCAサイクルに沿って見直され、地域住民の動きやつながりに還元されることをめざします。また、事例発表会で成果や課題を紹介し合い、参加者同士のネットワークづくりのみならず、県内の公民館活動の活性化につながることをめざしています。県内各地で、人づくり、地域づくりの核となって活躍されるみなさんを今後も応援していきます。

時代は、ファシリテーターを求めている!

■ 持続可能な地域づくりに向けて

平成29年3月の「人々の暮らしと社会の発展に貢献する持続可能な社会教育システムの構築に向けて 論点の整理」(学びを通じた地域づくりに関する調査研究協力者会議)において次のように明記されました。

・・・(前略) 地域住民が地域コミュニティの将来像や在り方を共有し、その実現のために解決すべき地域課題とその対応について学習し、その成果を地域づくりの実践につなげる「学び」を「地域課題解決学習」として捉え、社会教育の概念に明確に位置付け、公民館等においてその推進を図ることにより、住民の主体的参画による持続可能な地域づくりに貢献することが求められる。

このような提言からも、公民館等で行われる事業に学びの要素をしかけることによって、地域課題解決学習を推進していくことが大切です。そして、その地域課題解決学習を進めていく際、「住民の主体的参画による持続可能な地域づくり」に結びつけるファシリテーターの存在が求められています。

■ 動きを生み出すファシリテーター

例えば、用意された会議原稿を読み、一方的に提案されたことを多数決で決定するといった会議では、その場に参加した住民の意識・行動変容を期待することはできません。話し合いの場に、ファシリテーターがいることで、または、進行役がファシリテートする意識をもつことで、その場は劇的に変化します。ここでは、2つの事例を紹介し、それぞれの地域で「地域課題解決学習」を推進するファシリテーターを紹介します。

【事例①：地域のために動き出す中学生】

安来市赤江交流センター主事の二岡ユリさんは、将来、地域の担い手となる中学生の主体性を育み、やがては地域に戻ってリーダーとして活躍してほしいという思いがあります。

そこで、地区文化祭での中学3年生の関わりに目をつけました。今までお手伝いとして参加した中学生ボランティアの自主性・主体性を高めたいと考え、文化祭のブース出店を任せることにしました。



「中学生のアイデアを引き出したい!」

中学生に文化祭出店の趣旨を説明し、付箋紙を使いながら、「魅力的な文化祭にするにはどうすればよいか」について話し合いを重ねました。話し合いが、大人の押しつけではなく中学生主体のものになるように、できるだけ口を出さず見守るよう配慮されました。2回目の話し合いでは、さまざまな意見や希望のすり合わせをしながら、実現可能な出店計画案を考えました。徐々に中学生の意識が「自分たちで何とかしないと…」という思いに変わっていく様子が伺えたようです。



【中学生感想より】

たくさんの地域の人たちと関わることができてよかった。
地域でやっているいろいろな活動にも参加してみたい。

【地域の方の感想より】

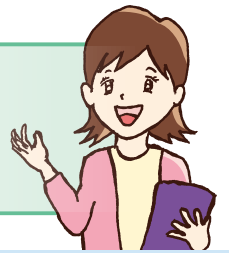
中学生の姿を文化祭で見られたことが嬉しかった。

「来年度は、今年度活動した生徒をアドバイザーとして経験を語る場を設けることで、さらに中学生が主体的に活動できるようなしなげをしていきたい」と将来への明るい展望を抱きながら二岡さんは語ってくださいました。

社会教育の現場では、地域住民同士が理想の将来像や在り方を考え、地域課題解決に向けて動き出すために、話し合いの場が必要になります。そこでは、一人一人の意見が尊重され、さまざまな他者と折り合いをつけながら方向性を定める必要があります。その場を円滑に進行する役として「ファシリテーター」が今、注目されています。



ファシリテーターとは、目的に応じて参加型学習を効果的に組み合わせ、学習プログラムを設計し、円滑に推進・進行する人のことです。学習者の活動が促進するように援助・支援などの働きかけも行います。



【事例②：親子で考える地域防災へ】

大田市立中央公民館主事の幸増千世さんは、当時勤務していた仁摩公民館で、若い親世代の人が互いに話し合うことで地域に関心を持ち、親同士のつながりを深めてほしいという思いがありました。

それまで地域の大人だけで行われていた防災教室から、地域の親子を対象にした防災教室を新たに企画することにしました。



**防災をきっかけに「親子や家族同士が
しっかり語り合ってほしい！」**



防災についての講義や非常食作り体験にあわせて、親子で避難所に持参すべきものを考えるワークショップを行いました。まずは、持参したいものを一人一人が付箋紙に書き出し、優先順位をグループで検討していきました。家族同士の話し合いの様子を全体で伝え合っていく中で、考え方の相違に気付いたり、これから自分でできそうなことについて話したりしている様子も伺えたようです。



【子どもの感想より】

次は、家族みんなで話し合ってみたいなと思った。

【大人の感想より】

1回限りでなく定期的にこのような教室で考えていきたい。
よい経験ができたので、周りの人たちにも声をかけていきたい。

ファシリテーターとして親子で学びの要素を取り入れた企画を行い、若い親世代の声や思いを聞くことができました。

親子防災教室は、はじめの一步。これをきっかけとして、次世代を担う親子が地域課題解決に向けて一歩ずつ踏み出すことを願っているそうです。

■ 地域課題解決学習をすすめるファシリテーターのために

事例①②のように、ファシリテーターが、話し合いの場を設定したり、ニーズに応えるプログラムを作成したりすることで、公民館事業へのより意欲的・主体的な参加、さらには地域住民の自主的な地域参画が期待できるのではないのでしょうか。

そんな可能性を秘めたファシリテーター。地域で行われる「地域課題解決学習」の活性化のために、東部・西部社会教育研修センターでは、地域課題解決学習の参考書として『地域魅力化プログラム』を発行しました。また、このプログラムを参考にしながら、地域で活躍できる人材を育成するファシリテーター養成講座も実施しています。ぜひ、ご利用ください。



学びがチカラに!!

社会教育研修センターの研修で学んだことを、地域や現場での実践に活かしていらっしゃる方を紹介します

研修によってアイデアがカタチに・・・そして道筋が明らかになってきた!

美郷町 ^{つが}都賀公民館 主事 宮岡 美佐子さん



宮岡さんは、公民館主事としてのスタートを切った平成28年5月、公民館等職員研修を受講されました。情報がないうまま初任者研修のつもりで参加され、初めは聞きなれない言葉の連続で大変だったようです。しかし、そこでの学びが社会教育や地域課題について考えるキッカケになり、3年目の今年は、ファシリテーター養成講座を受講されました。地域において“防災”への意識を高めたいと感じた宮岡さん。地域の方を対象に事業を行うことを想定して、学習プログラムのデザインをされました。

2つの研修を受講されたことにより、どういったことに気づき、これから何を大切にしたいか、お話を聞きました。

■アイデアをカタチにするために

公民館等職員研修で使ったワークシートは、今でも活用しています。私は、いろいろとアイデアは思いつくのですが、それをカタチにするのが苦手でした。このシートは、自然とアイデアを整理し、カタチにすることができて便利です。また、なぜこの活動をするのかという根拠を明らかにすることで、説得力も増してきます。計画の段階で活用することにより、目標を見すえながら計画を練ることができました。

アンケートは、事業の評価をするときにとても役立ちます。作成の際には研修で学んだことを生かし、何を知りたいのか、その結果をどうするのかを考え作っています。そこから見えてくるものを次の事業計画に生かすことが大事なことで考えています。



事業で作ったデコパージュ*のテーブル。上に乗っているのは、活用しているワークシート。

■研修に気軽に参加できるように

ファシリテーター養成講座の経験を生かし、防災についての講座を実施しました。美郷町は、今年も豪雨による水害があり、防災についての学習の必要性を感じています。

これまでは事業を実施しても、グループワークに抵抗感があり地域の方の参加が少ない状況がありました。そこで、取り組みたい課題を参加しやすい内容の事業と組み合わせ実施しました。ここでのポイントは“気軽さ”で、取り入れたのは〇×クイズです。書いたり発表したりするワークをしないことで、身構えず会話を楽しみながら意見を言い合うことができました。〇か×かだけでなく、その理由を話し合うことで人によって考え方の違いがあり、「話し合うことの大切さがわかる」というねらいに迫っていったと思います。



■地域の人の“やってみたい”を手助けしたい!!

宮岡さんは、「都賀・長藤地域では、住民の方が自らさまざまな活動をしておられ、つながりづくりが出来ている」と話されました。なので、これから大切にしたいこととして、公民館は住民の方の「これをやってみたい!公民館に相談してみよう!」と思ってもらえるような活動をしていきたいと話されました。

*デコパージュ・・・木、ガラスなどに切り抜いた絵を貼り付け、上からニスを塗る装飾技法。〔大辞林 第三版より〕

社会教育の実践紹介



地域の仲間とめざす「健康長寿日本一」

阿用交流センター(阿用地区振興協議会) 地域福祉推進員 岩田 久美子

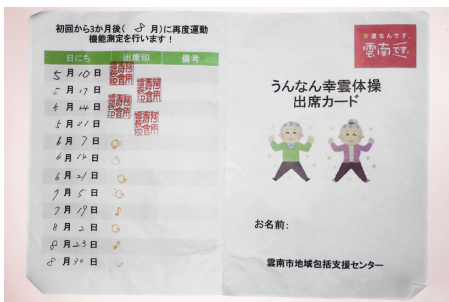
阿用地区振興協議会では、今年度から「健康長寿の郷づくり」事業の一環として「うなんん幸雲体操」を「阿用いきいき健康サロン」と称して毎週木曜日に阿用交流センターで実施しており、60代～80代の方が毎回25人前後(男性の参加が4割)参加され盛況を得ています。この体操は、いすに座って手首、足首に重りを付け歌いながら体を動かす筋力運動です。初回に数項目の体力測定をし、3ヶ月後に同じ測定を行い体操の成果を見ました。ほとんどの方の測定数値が良くなっていて、なによりみなさんの声として「右手が肩まであがるようになった。」「湿布を毎日貼っていたのが、いらなくなっ

た。」など実感しておられることが多く、嬉しく思いました。また、男性の参加率が高く、それについては、「元気で農業を続けたい。」「今の体力を維持したい。」などの声が聞けました。それと仲間がいることで、「やる気」が出るのではないかと考えています。

参加者には出席カードがあり、いっぱいになったらプレゼントもあります。これも一つ励みになっています。一人では無理でも、仲間となら続けられる「うなんん幸雲体操」を多くの人に知ってもらい、健康長寿の仲間が広がることを願っています。



いすを使って「うなんん幸雲体操」をする様子



参加者に配られた出席カード

皆で一緒に取り組む雰囲気づくり、福祉部局の協力で客観的に「伸び」が実感できる体力測定など、「次も来よう!!」と思わせるしかけがあります。他地域でも取り組まれている健康体操を阿用地区に合った形で導入されました。

健康づくりの取り組みが、地域づくりを担う人づくりにつながりそうな予感がします。

(出雲教育事務所 雲南市派遣社会教育主事)



「憧れのサイクル」 ～新たな先生の登場！～

津和野町教育委員会 派遣社会教育主事 佐々木 将光

津和野小学校放課後子ども教室「つわぶきワクワク広場」は、地域の大人が先生となり、子どもたちと一緒に様々な体験活動をする放課後の居場所です。開設9年目の今年、うれしいことがありました。

それは、ワクワク広場の卒業生が今度はワクワク広場の先生になったことです。20歳になった彼が「あの頃とても楽しかったから、今度はぼくが楽しいことをやりたいです。」と、昔やった遊びを紹介したり、スポーツを教えたりしています。うれしいことはさらに続きます。近年卒業した中高生の参画です。津和野を楽しく盛り上げようと活動

している中・高生グループ(つわのKinds circle)が、部活動のない日に子どもたちと一緒に津和野地区が見渡せる高台の畑にひまわりを植えたり、夏休みに子ども向けのイベントを企画したりしました。

先輩である卒業生が生き生きと活動する姿を、目を輝かせて見聞きする子どもたち。みんなの憧れの存在になっているようです。その憧れが「次の新たな先生へ…」という「憧れのサイクル」として、これからも続いていく場にしていきたいと思います。



ひまわりの種まきを優しく教える中学生



竹の切り方を教えてくれる高校生を憧れの目で見つめる小学生

持続可能な地域づくりにおいて若者の地域参画が課題となる中、津和野町では「憧れのサイクル」としてロールモデルの循環が実現しています。このことは、地域の方々がそれぞれの得意なことを活かし、楽しみながら子どもたちの育ちを支える活動を地道に継続してきたことの大きな成果です。まさに「継続は力なり」ですね。

(益田教育事務所 社会教育スタッフ企画幹)

親学の今!

【邑南町】編

邑南町教育委員会では、平成29年度・30年度「親学ファシリテーター養成講座」を独自に開催しました。今回は、その様子と養成に込めた思いを紹介します。

邑南町教育委員会では、家庭教育支援の一つとして親学を推進していくことを大切にしています。そのために親学ファシリテーターを養成する必要性を感じていました。地域住民からは「親学プログラムに興味があり、学んでみたい」という声も聞かれていました。しかし、これまでは実際に養成講座を計画しても、参加者が集まりませんでした。

「その日は仕事の都合がつかない」「まとまった時間を取ることができない」「丸一日仕事を休むのは難しい」…
そこで…

● 養成講座の実施にひと工夫を加えて…

“どうしたら養成講座に来てもらえるのか”を考えました。そして、受講者のニーズに合わせて次のような工夫をしました。

- 講座を複数回に分ける
- 1回の講座は2時間
- 時間帯は仕事に影響の少ない夜
- 全ての回に参加できなくても、都合のよい回だけ参加することもOK!

多くの人に参加してもらいたいという願いを込めて、講座内容を5回(導入編2回、演習3回)に分けて行いました。そして、目的意識をもって学んでほしいと考え、特別編として、実践する場(PTA・地域住民を対象とした場)を2回計画しました。

はじめは、参加者が集まるかどうか心配もありましたが、毎回20数名もの受講者が集まりました。

開催のスタイルを工夫したことで、保育園の先生、公民館の職員、社会教育委員、行政関係の職員、地域の方々などさまざまな立場の人の参加が見られるようになりました。参加者からは「参加しやすい時間帯だった。」「学んだことが仕事以外でも役に立ちそう。」「自信を持って人前に立てるようになった。」といった声を聞くことができました。



【養成講座の様子】

● 養成されたファシリテーターのこれからを応援する

邑南町教育委員会では、親学ファシリテーターの皆さんが活動しやすいように、次のようなことを大切にしています。

- “寄っては散らばる”を繰り返す柔軟なファシリテーターのつながり
- 「PTAの研修会」「子育てを語る会」などの親学を開催する場の提供
- タイムリーな情報や機会の提供
- 親学ファシリテーターの意欲に応じた実践(活躍を求めすぎない。やりたい人から学びを生かしてもらう)
- 学んだことを親学以外のことにも広く活用するための支援



【アイスブレイク体験の様子】

● 教育委員会の思い ~つながりを大切にする~

養成講座を進めることはもちろん大事です。しかし、休憩のお茶の時間も重要な意味を持っていると思います。さまざまな立場の方が、自由に語り合える時間と雰囲気が大切です。参加者同士が次第に関わりを深めることができるようになるように心がけています。

よりよい子育て環境をつくるためにも、ここで生まれたつながりが、さらにより連携・協働に向けての基盤になると考えています。

東部社会教育研修センター

〒691-0074 出雲市小境町1991-2 サン・レイク2F
Tel.(0853)67-9060 Fax.(0853)69-1380

URL: https://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoiku/
E-mail: tobu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

西部社会教育研修センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1 いわみーる3F
Tel.(0855)24-9344 Fax.(0855)24-9345

URL: https://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/
E-mail: seibu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

第29号は
9月末
発行予定